

株主の皆様へ

# 第19期報告書

2011年10月1日～2012年9月30日

証券コード：3814



株式会社

ALPHA FFS CO., LTD.<sup>®</sup>

—— 食文化の発展に情報システムで貢献する ——

アルファクス・フード・システム

## 企業理念



アルファクス・フード・システムは、「食文化の発展に情報システムで貢献する」ことを経営理念に、私たちが提唱する「食材ロスカット」「人件費ロスカット」を実現させる開発方針のもと、外食チェーン企業の情報システムインフラ企業となることを目指しています。

社名の「アルファクス」とは、ギリシャ語で、物事の始まりを意味する「α」と、限りない可能性を秘めた「X」を結びつけた造語です。ご提案するソリューションの最初から最後まで、責任をもって取り組ませていただくという私たちの姿勢を示すものです。

この社名に、フードサービス業界専門の情報システム企業として、お客様と共に、業界発展のお手伝いをしたいという熱い思いを込めています。



## 外食チェーン情報システム「ソフト」から「ハード」までの主要3事業

## ASPサービス事業

外食企業様に対して、売上分析・経営指標・在庫ロス分析・勤怠シフト管理・受発注・C K物流・財務連動システムまでの各基幹業務システムをご提供しています。

## システム機器事業

外食企業様の本部系基幹業務の精度を高めるために必要な店舗システム機器である「POSシステム」及び「オーダーエントリーシステム」の自社開発を行なっています。

## 周辺サービス事業

外食企業様向け「ワンストップサービス」の一環として、外食関連の広範囲なWEBサービスのご提供や、システム機器などの保守・メンテナンスを行なっています。

アルファクス・フード・システムは、創業以来一貫して、食材／人件費ロス管理を中心とした、経営コストのロスを徹底追求することのできる「基幹業務システム・サービス」の提供を行なっています。

そして、外食チェーン企業の情報システムインフラ企業となることを目指しております。

株主の皆様へ



## 株式会社アルファクス・フード・システムは、 平成24年度をもちまして、 創業25周年を迎えることができました。

代表取締役社長 田村隆盛

### 次の25年も、お客様に密着した「業界初」の新発想・新サービス 「パイオニア精神」でお客様ニーズに応え続けます。

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社はお陰様で当期創業25周年を迎えることができました。これまでお取引いただいたお客様をはじめ、株主様、お取引業者様に改めて、心から深く感謝申し上げます。

さて、2012年9月期（第19期）におけるわが国経済は、引き続きヨーロッパ・米国経済の減速や円高などの影響を受け、日本経済の景気低迷も長引いており、個人消費の低迷は継続しております。

また、前期に発生いたしました東日本大震災の影響につきまして、当期は軽微との期待もございましたが、結果的には影響が通期に亘り、特に外食企業様には厳しい状況が続いております。

その結果、機器の低価格化が更に進んでいることや、東日本大震災後の通期に及んで外食企業様のコスト削減・支援債引き等の影響を受け、予算には達成いたしませんでした。

当期の配当につきましては、営業利益、キャッシュ・フロー、経常利益共に黒字を確保いたしました。繰延税金資産を取崩すこととなり、純損失計上となりましたことなどから、期末配当につきまして、株主様には誠に遺憾ながら、見送らせていただくことといたしました。

主力の「ASP基幹業務サービス事業」におきましては、外

食企業様の店舗計画の見直しによる月額報酬の減少も、当期をもって完全になくなり、来期は引き続き販売好調の続くシステム機器の納品先を中心に、主力のASP基幹業務サービス拡大を目指して参りたいと存じます。

外食業界を取り巻く環境は、年々厳しさを増しておりますが、本格的に市場投入しております「FOODα5000」と、有機EL搭載「オーダーショット（ハンディショット）」の販売競争力は抜群であり、更に当社は、これまでのロスを徹底追求できる「基幹業務システム」に加えて、各種販売促進・集客支援サービスを含めた外食統合データベースサービス「FOOD GENESIS」を発売しておりますが、こちらの販売も順調に推移しております。

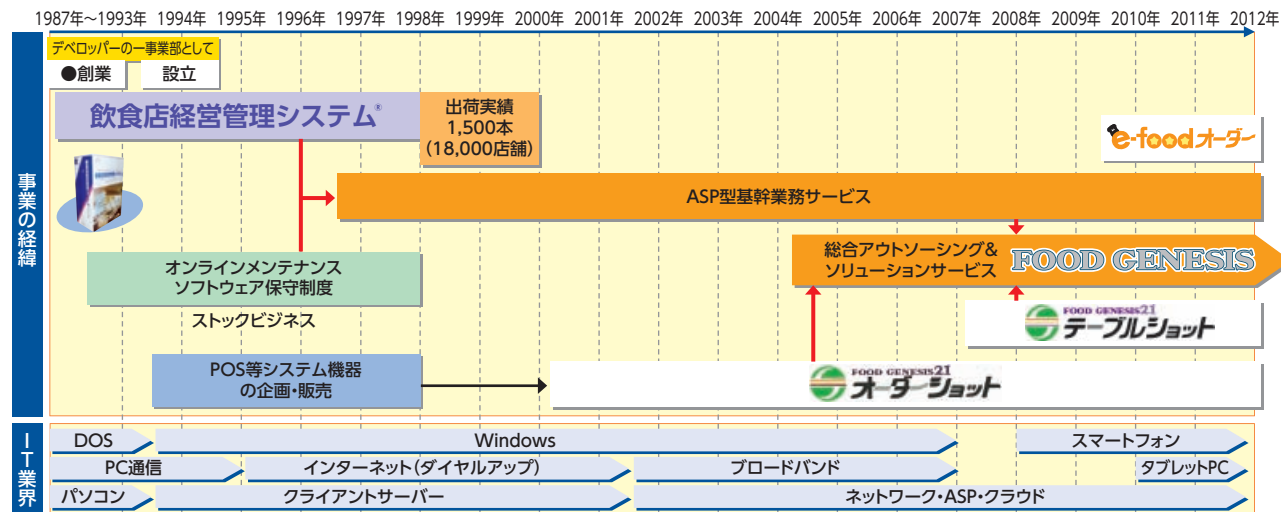
当社は、国内で唯一、「店舗情報システム機器」と「本部基幹情報システム」の両方を1社で手掛ける外食専門の情報システム・サービス会社で、ロス削減による最大利益確保とコストパフォーマンスにおきましては、25年以上に亘り高い評価をいただいております。

これからも謙虚さと誠実さを忘れず、お客様の声を第一に、外食業界の情報システムインフラになるよう、製品・サービスの向上に努め、株主・投資家の皆様のご期待にお応えしていく所存でございます。

今後とも一層のご支援ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

# 創業25周年 これまでの歩み

## アルファクス・フード・システム設立の経緯について (田村社長へのインタビュー)



私は当初、コンピューター会社に就職し、システムエンジニアとして複数業種を対象とした業務システムの設計に携わっていましたが、その後、中堅不動産デベロッパーであったアルファクス社に転職し、システムエンジニアの責任者となりました。アルファクス社は、不動産事業を軸に、貸ビル、ホテル・レジャー施設などの事業を展開していた会社で、各事業の付帯設備としてレストランもありました。各事業を横断してシステムを作り上げていく過程で、レストラン単独での売上が相当ある割に利益がほとんどなく、客観的に大きなロスが発生していることに気づいていたため、その他のシステム設計が終わった後に、付帯設備となっているレストランを単独の事業部として管理したほうが良いと提案をしたところ、全部任せるからレストラン事業の改革に取り組

んでほしいといわれました。

レストラン事業の売上管理を含めたロス管理システムを自ら開発する計画はなかったため、国内でパッケージのようなものを探しましたが、まったくなかったため、自ら開発したのが現在ベースになっている外食企業用のシステムです。当時は、大型コンピューター用に構築しましたが、その効果は絶大で、3ヶ月ほどで億単位の改善となり、仕入業者を中心に噂として広まり引き合いが殺到したので、外食企業様を対象にパソコン用のパッケージソフトにして売り出したところ、初年度で大きな黒字事業となりました。

その後、このデベロッパーの一事業部をMBOして設立した会社が、外食企業様向け専門の情報システム会社としてのアルファクス・フード・システムの始まりとなったわけです。

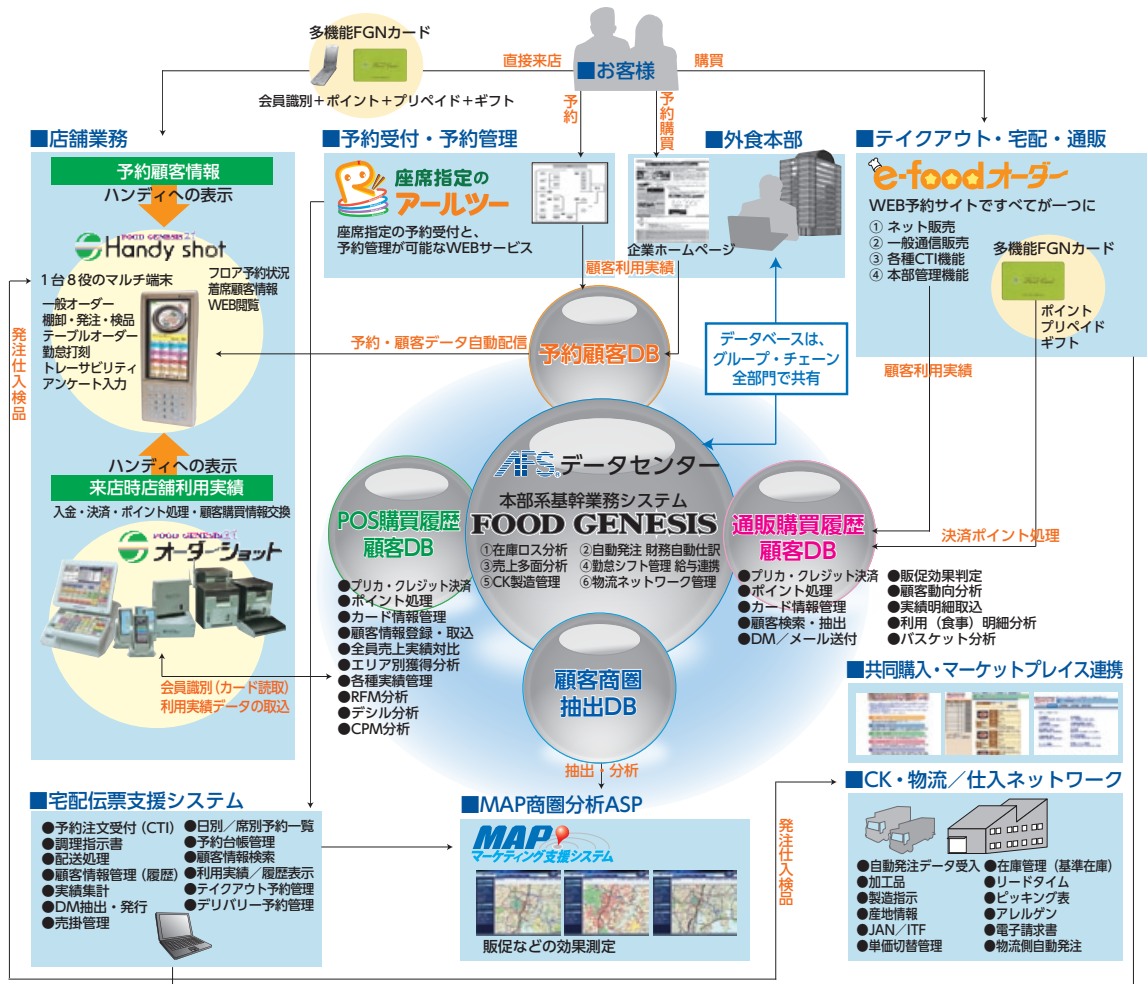
# AFS最大の強みは、『店舗情報システム機器』から『本部系基幹業務システム』を1社で手掛けられること。そして、**外食企業様の業務を完全自動連動させ、ロス削減による最大利益確保を実現できることです。**

大手外食チェーン企業にとって、二大原価（食材／人件費）削減から本来あるべき利益を確保していくことは最重要課題であり、店舗展開を行なう上で、その重要度は更に増していきます。しかし、これを実現することは極めて困難で、店舗、本部、CK、複数の外部取引先とのシステム完全連動に加え、異業態の混在や、業務サイクル、コンプライアンス、オペレーションの徹底等、様々な課題をクリアしなければなりません。

このような多岐に亘る課題、複雑なシステム構築においてもすべてAFS 1社のみで手掛け、ロス削減による最大利益確保を実現できることが当社の強みであり、他社が追従できない所以です。



# 店舗システム機器／基幹業務システム／WEB集客支援サービスを1社で手掛ける、AFS®ならではの業界初の周辺統合一元管理サービスです。





## 事業の概況

## 経営成績

<b>売上高</b>		<b>23.9%DOWN</b>
第18期	第19期	
2,438 百万円	1,856 百万円	

<b>営業利益</b>		<b>13.3%DOWN</b>
第18期	第19期	
27 百万円	23 百万円	

<b>経常利益</b>		<b>22.8%DOWN</b>
第18期	第19期	
13 百万円	10 百万円	

<b>当期純利益</b>		<b>— %</b>
第18期	第19期	
2 百万円	17 百万円	

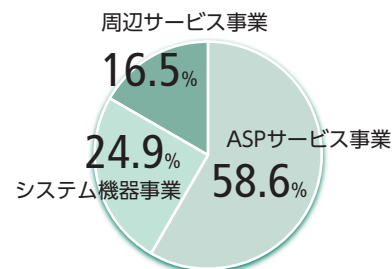
当事業年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興景気等により緩やかながら回復感もみられたものの、長引く欧州における債務問題、電力問題及び円高の長期化等により依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社の主要販売先である外食産業におきましては、引き続き消費者の節約志向を背景とした低価格化及び顧客獲得に関する競争は激しさを増しており、当社の事業領域において厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、ASPサービス事業におきましては、新規の受注及び追加サービスの獲得等により順調に推移しましたが、月額サービス料への寄与は翌期以降となるため本格的な回復には至りませんでした。また、周辺サービス事業におきましても、周辺機器の導入が順調に推移いたしました。システム機器事業における売上につきましては、既存店舗への機器入れ替えが一巡したこと及び一部の受注がずれ込んだことにより減少いたしました。

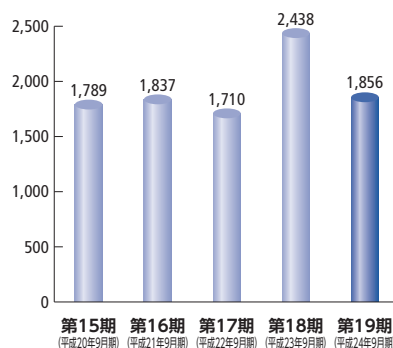
その結果、売上高は1,856,228千円（前事業年度比23.9%減）となりました。利益面に関しましては、営業利益23,942千円（前事業年度比13.3%減）、経常利益10,389千円（前事業年度比22.8%減）となりました。当期純利益に関しましては、業績等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産を11,784千円取崩すこととなり、当期純損失17,975千円となりました。

## 事業別売上高構成比率（第19期）



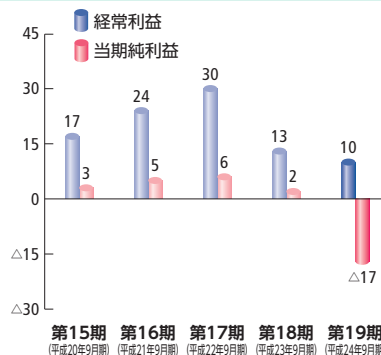
## 売上高

(単位：百万円)



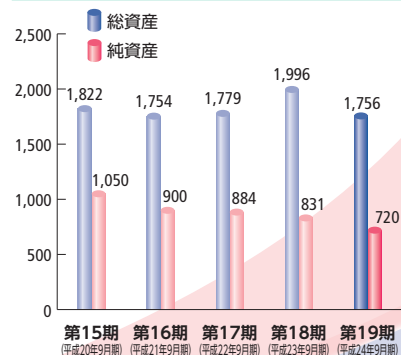
## 経常利益・当期純利益

(単位：百万円)



## 総資産・純資産

(単位：百万円)



## 財務諸表

## 貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度 (平成24年9月30日現在)	前事業年度 (平成23年9月30日現在)	科 目	当事業年度 (平成24年9月30日現在)	前事業年度 (平成23年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	1,278,021	1,404,795	流動負債	908,976	881,618
現金及び預金	522,720	685,171	買掛金	64,179	148,977
売掛金	282,952	288,997	短期借入金	561,000	549,000
商品	414,914	388,030	1年内償還予定の社債	60,000	60,000
貯蔵品	14,895	3,911	1年内返済予定の長期借入金	100,000	—
前払費用	24,433	21,268	未払金	21,899	13,285
繰延税金資産	16,776	22,157	未払費用	9,181	9,556
未収入金	2,742	1,344	未払法人税等	18,098	15,080
その他	2,161	274	預り金	13,793	8,479
貸倒引当金	△ 3,575	△ 6,359	前受金	36,978	44,871
固定資産	474,149	585,542	賞与引当金	14,417	16,567
有形固定資産	231,135	279,238	その他	9,428	15,801
建物	12,240	9,455	固定負債	127,039	282,886
車両運搬具	0	0	社債	110,000	170,000
工具、器具及び備品	184,342	164,763	長期借入金	—	100,000
土地	20,429	20,429	退職給付引当金	17,039	12,886
建設仮勘定	14,123	84,591	<b>負債合計</b>	<b>1,036,016</b>	<b>1,164,505</b>
無形固定資産	31,211	65,609	<b>純資産の部</b>		
ソフトウェア	28,765	63,163	株主資本	720,682	832,062
電話加入権	2,445	2,445	資本金	537,862	535,020
投資その他の資産	211,803	240,694	資本剰余金	143,599	143,599
出資金	145	136	利益剰余金	287,460	322,445
長期前払費用	103,564	103,337	自己株式	△ 248,239	△ 169,002
敷金及び保証金	20,138	8,549	評価・換算差額等	△ 66	△ 70
繰延税金資産	27,730	34,145	その他有価証券評価差額金	△ 66	△ 70
長期未収入金	82,446	123,455	<b>純資産合計</b>	<b>720,615</b>	<b>831,991</b>
その他	14,420	9,110	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,756,631</b>	<b>1,996,497</b>
貸倒引当金	△ 36,644	△ 38,040			
繰延資産	4,460	6,159			
社債発行費	4,460	6,159			
<b>資産合計</b>	<b>1,756,631</b>	<b>1,996,497</b>			



## 損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	(平成23年10月1日から 平成24年9月30日まで)	(平成22年10月1日から 平成23年9月30日まで)
売上高	1,856,228	2,438,739
売上原価	1,258,172	1,861,750
売上総利益	598,055	576,988
販売費及び一般管理費	574,112	549,361
営業利益	23,942	27,627
営業外収益	844	882
営業外費用	14,398	15,043
経常利益	10,389	13,466
特別損失	—	43
税引前当期純利益	10,389	13,422
法人税、住民税及び事業税	16,580	13,818
法人税等調整額	11,784	△ 2,595
当期純利益又は当期純損失 (△)	△ 17,975	2,199

## キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	(平成23年10月1日から 平成24年9月30日まで)	(平成22年10月1日から 平成23年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,579	236,253
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,018	△ 125,745
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 141,212	74,286
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 144,650	184,793
現金及び現金同等物の期首残高	644,871	460,077
現金及び現金同等物の期末残高	500,220	644,871

## 株主資本等変動計算書

当事業年度 (平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

(単位：千円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本計	その他 有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計
		資本準備金	資本剰余金	本剰余金計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金計					
平成23年10月1日 残高	535,020	143,599	143,599	322,445	322,445	△ 169,002	832,062	△ 70	△ 70	831,991	
事業年度中の変動額											
新株の発行	2,842						2,842			2,842	
剰余金の配当				△ 17,009	△ 17,009		△ 17,009			△ 17,009	
当期純損失				△ 17,975	△ 17,975		△ 17,975			△ 17,975	
自己株式の取得						△ 79,237	△ 79,237			△ 79,237	
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)								3	3	3	
事業年度中の変動額合計	2,842	—	—	△ 34,985	△ 34,985	△ 79,237	△ 111,379	3	3	△ 111,376	
平成24年9月30日 残高	537,862	143,599	143,599	287,460	287,460	△ 248,239	720,682	△ 66	△ 66	720,615	

## 会社概要・株式の状況

## ■会社概要 (平成24年9月30日現在)

社名	株式会社アルファクス・フード・システム (ALPHAX FOOD SYSTEM CO., LTD.)
創業	平成5年12月9日
資本金	5億3,786万2,408円
代表者	代表取締役社長 田村隆盛
事業内容	外食企業向け 1.ASP方式による各種イントラネット基幹業務サービス 2.システム機器の企画・販売 3.ハードウェア・ソフトウェアの全国メンテナンスサービス 4.Webによる業界専用ポータルサイト (外食総合eマーケットプレイス)の運営・提供
本社	〒756-0039 山口県山陽小野田市千崎128番地 TEL(0836)39-5151(大代表) FAX(0836)39-6448
データセンター	〒755-0052 山口県宇部市西本町二丁目14番30号
従業員数	98名

## ■役員一覧 (平成24年12月26日現在)

代表取締役社長	田村隆盛
取締役	宇多田純三
取締役	松崎常男
取締役	福田省吾
取締役	河原克樹
常勤監査役	溝部和昭
監査役	古閑謙士
監査役	堀江義光

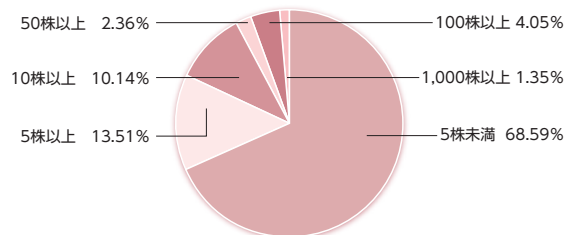
## ■株式の状況 (平成24年9月30日現在)

発行可能株式総数	91,704株
発行済株式の総数	25,138株
株主数	296名
大株主	

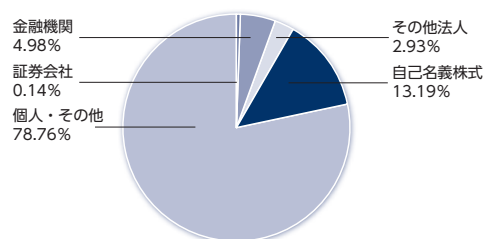
株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
田村隆盛	12,115	55.5
鎌田英哉	4,500	20.6
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	1,242	5.7
株式会社アルゴコミュニケーションズ	375	1.7
加藤繁夫	299	1.4
江藤鉄男	293	1.3
田村隆次	164	0.8
田村清隆	150	0.7
株式会社TBグループ	150	0.7
木山貴英	147	0.7

(注) 1. 当社は、自己株式を3,315株保有しておりますが、上記大株主からは控除しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## ■所有株式数別株主数比率



## ■所有者別株式数比率



アルファクス・フード・システムの主要製品

# 全国の外食産業 **6,070**<sup>※</sup> 店で活躍しています!

※ASP契約店舗数を含む



FOOD GENESIS 21  
**Handy shot**

## 複数の店舗業務をカバーするマルチ多機能端末

入力端末となる「Handy shot」は、1台8役（一般オーダー、棚卸、発注、検品、テーブルオーダー、勤怠打刻、トレーサビリティ、アンケート入力）をこなすマルチ多機能端末です。



FOOD GENESIS 21  
**オーダーショット**

「オーダーショット」は、マルチ多機能端末「Handy shot」をはじめ、店舗でのオーダー業務に最も重要視される操作性、レスポンス、メンテナンス性という基本性能を従来のものより飛躍的にレベルアップさせ、オーダーエントリーシステムの新時代を切り拓きました。これからも「オーダーショット」は、新しい可能性の追求と共により一層、製品の充実を図ってまいります。

## 業界初の縦置き横置き兼用で、ファミレスからファーストフードまであらゆる業態に対応!

20年以上に亘るPOSシステムのノウハウが結集した最新型フードビジネス専用PC-POSシステムです。

**FOOD & 5000**



FOOD GENESIS 21  
**テーブルショット**



人件費を抑え、オーダー効率を上げるフードサービス専用テーブルオーダーシステム。「オーダーショット」との一体設計で、従来のマスタメンテナンスの二重管理が解消。大手回転寿司チェーンから、居酒屋チェーンまで、幅広く導入されています。

## 株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	事業年度終了後3カ月以内
上記基準日	9月30日
剰余金の配当基準日	毎年9月30日及び中間配当の支払いを行なう時は3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711（フリーダイヤル）
公告方法	電子公告により行ないます。 但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行ないます。 なお、電子公告を掲載する当社ホームページアドレスは以下のとおりです。 <a href="http://www.afs.co.jp/">http://www.afs.co.jp/</a>

株主の皆様へ当社の各種情報を提供する  
ホームページを開設しています。  
<http://www.afs.co.jp/>

当社のホームページでは、株主・投資家の皆様向けのIR情報をはじめ、最新の企業活動をお知らせするニュースリリース、新製品に関することなど、様々な情報を提供しています。



—— 食文化の発展に情報システムで貢献する ——  
株式会社 **アルファクス・フード・システム**

〒756-0039 山口県山陽小野田市千崎128番地  
TEL (0836) 39-5151 (大代表) FAX (0836) 39-6448



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。